

eラーニングの先進的事例調査報告書（案）

平成 25 年 11 月 27 日

様

大学間連携共同教育推進事業
研究員 小田奈緒美 ㊞

大学間連携共同教育推進事業「愛知県内教員養成高度化支援システムの構築」プロジェクトにおいて、「eラーニングの先進的事例」の視察を行ったので、その結果を下記のとおり報告します。

記

1. 調査日時	平成 25 年 11 月 22 日（金）13：00～16：00（3H）
2. 視察先	香川大学 e-Knowledge コンソーシアム四国（eK4） 住所：香川県高松市幸町 1 番 1 号 香川大学幸町キャンパス（総合情報センター22 番） http://www.kagawa-u.ac.jp/access/saiwai/
3. 視察目的	平成 24 年度文部科学省大学改革推進等補助金「大学間連携共同推進事業—愛知県内教員養成高度化支援システムの構築—」の採択により、国公立の 5 大学が、愛知教員養成コンソーシアムを構成し、事業を実施する。事業の実施にあたり、国内における eラーニング講義を実施する大学を実地視察するとともに、担当者からの情報収集および意見交換を行うことで、5 大学間での eラーニング講義の開講に有効な手法を構築することを目的とした。
4. 視察内容 （調査）	① e-Knowledge コンソーシアム四国の運営について ② eラーニングコンテンツ作成について ③ eラーニングコンテンツのコンソーシアム間の共同利用について
5. 参加者 （8 名） （大学別・ 敬称略）	・愛知県立大学 教育福祉学部 教授 木幡洋子 ・桜花学園大学 保育学部 教授 浅野卓司 ・桜花学園大学 学務部・教務課係長 長坂達弘 ・名古屋学芸大学 ヒューマンケア学部 教授 安井克彦 ・愛知淑徳大学 人間情報学部 助教 木幡智子 ・小牧市立小牧中学校 教諭 富田賢史 ・愛知教育大学 教育研究支援部長 三宅育夫 ・愛知教育大学 大学間連携共同教育推進事業 研究員 小田奈緒美
6. 所見	別添えのとおり

目次

視察概要.....	2
eラーニングの先進的事例調査報告書.....	3
1. 視察先概要.....	3
2 事業内容.....	4
2.1 e-Knowledge コンソーシアム四国.....	4
2.2 事業内容.....	4
2.3 事業の効果.....	6
3 視察内容.....	7
3.1 視察・インタビュー実施事項.....	7
3.2 香川大学側出席者（3名）.....	7
3.3 視察者側出席者.....	7
3.4 視察・インタビュー議事録.....	8
3.4.1 e-Knowledge コンソーシアム四国の取組について.....	8
3.4.2 質疑応答.....	10
① e-Knowledge コンソーシアム四国の運営について.....	10
② eラーニングコンテンツの作成に関わるスタッフについて.....	11
③ コンテンツの撮影について.....	12
④ コンテンツについて.....	13
⑤ 授業サポートシステム（Moodle）での小テストについて.....	15
⑥ 受講の様子について.....	16
4. まとめ.....	18

視察概要

■ 視察経緯

現在、本プロジェクトにおける今年度の事業展開のうち、各種資格取得プログラムでは学校図書館司書教諭資格取得のための e ラーニングコンテンツ作りを進めている。e ラーニング教材を活用することにより、学生はどこでも何度でも繰り返し授業を視聴することができるため、確かな知識修得につながる。また、現職教員はこれまで開講時期の関係で 2 年かけないと取得できなかったが、1 年で資格を取得することができるようになれば、受講の際の負担が減るなど、受講生の利便性を高めることができる。

そこで、本年 6 月には学校図書館司書教諭関連授業を e ラーニングにて実施している明治大学を視察し、e ラーニングのコンテンツ制作方法に関する知見を得た。明治大学は、設備面や学生フォロー専門のスタッフの活用なども進めていたが、1 大学 3 キャンパス間での利便性向上のために e ラーニングを活用しているとのことであった。

今回、本事業は 5 大学間での e ラーニング活用を予定していることから、コンソーシアムで e ラーニングの作成および活用をしている「e-Knowledge コンソーシアム四国（以下 eK4）」にて視察を実施することとした。

■ 視察先

視察先は、香川大学総合情報センター eK4 事務局の担当者から、eK4 の取組を説明していただき、その後意見交換を実施することとした。

■ 視察概要

- ・ メンターとしての岩城先生の役割は、コンテンツの撮影、編集、小テストの作成、アルバイトの管理など多岐に渡ることがわかった。
- ・ 事業 3 年目にはコンテンツを 10 科目近く作成し、助成金がない中で現在まで継続して運用するためには、実務と教員、システム担当者の連携が不可欠である。
- ・ コンテンツの作成には、科目担当教員の他、スタッフ 1 名、撮影・編集アルバイト学生が関わっているが、安定したアルバイトを確保することは課題である。
- ・ コンテンツは、対面の授業を撮る方法と、収録教室で教員のみを撮影する 2 パターンを基本としている。教員の話す内容を文字起こしするのに時間がかかるため、自動化できると良い。
- ・ 学外にインタビューや撮影に行く場合、1 回分のコンテンツを作成するのに撮影と編集で約 1 週間かかる。
- ・ コンテンツと共に Moodle を活用しており、学生へのフォローや配信時刻の確認、小テストなどがしやすいように工夫している。
- ・ コンテンツは基本的に 20 分単位のを合計で 90 分になるように作成し、その他に小テストを実施する形で作成している。
- ・ 受講者数は大体 100 名以上であり、最大 180 名程になった。曜日や時間により受講人数はかなり左右される。

eラーニングの先進的事例調査報告書

小田奈緒美

1. 視察先概要

香川大学は、6学部13学科、8研究科(2専門職大学院を含む)を擁した総合大学である。個性と競争力を高めるために「地域に根差した学生中心の大学」をめざしている。

平成24年10月からは、以下のような教育改革を進めている。

①初年次教育の学士課程教育の改革

全ての授業にアクティブラーニングを取り入れるとともに、特に意欲の高い学生を対象としたアドバンスト・セミナーを創設する。

②他大学との教育連携の推進

四国防災・危機管理特別プログラムを共同開設して専門家の養成を図るとともに、e-Knowledge コンソーシアム四国を基盤とした四国8大学における「四国学」等の授業を共同実施する。

③特別教育プログラムの創設

グローバル人材育成プログラム、防災士養成プログラム、人間探求プログラムを開設する。



<香川大学キャンパスマップ>

出典：香川大学 HP：<http://www.kagawa-u.ac.jp/access/saiwai/>

2 事業内容

2.1 e-Knowledge コンソーシアム四国

四国の大学には、『四国は一つ』という意識の共有を通じて「協調的地域づくりに携わる人材」の育成が求められている。そこで、2008年10月、四国内の国公立8大学（徳島、鳴門教育、香川、愛媛、高知、四国、徳島文理、高知工科の各大学）が、連携してeK4を設立し、各大学の特徴ある講義をeラーニングコンテンツとして提供することで、教育基盤『四国の知』を構築している。『四国の知』は四国の資源の魅力・ブランド・歴史・地勢・文化・伝統等の「教養教育科目群」＝『四国学』と、四国の課題に取り組むために必要な「学際的専門教育科目群」で構成されている。連携大学は、地域のニーズに応じて『四国の知』を活用しながら、四国への郷土愛と、地域に根ざした高い専門性を持つ「協調的地域づくりに携わる人材」を育成する。この教育プログラムによって育成された人材が、四国で活躍することにより、四国の知力（知識・技能）が向上し、さらには「四国の自立的発展」が促されると考えている。

e-Knowledge コンソーシアム四国運営組織は、下図に示すとおりである。

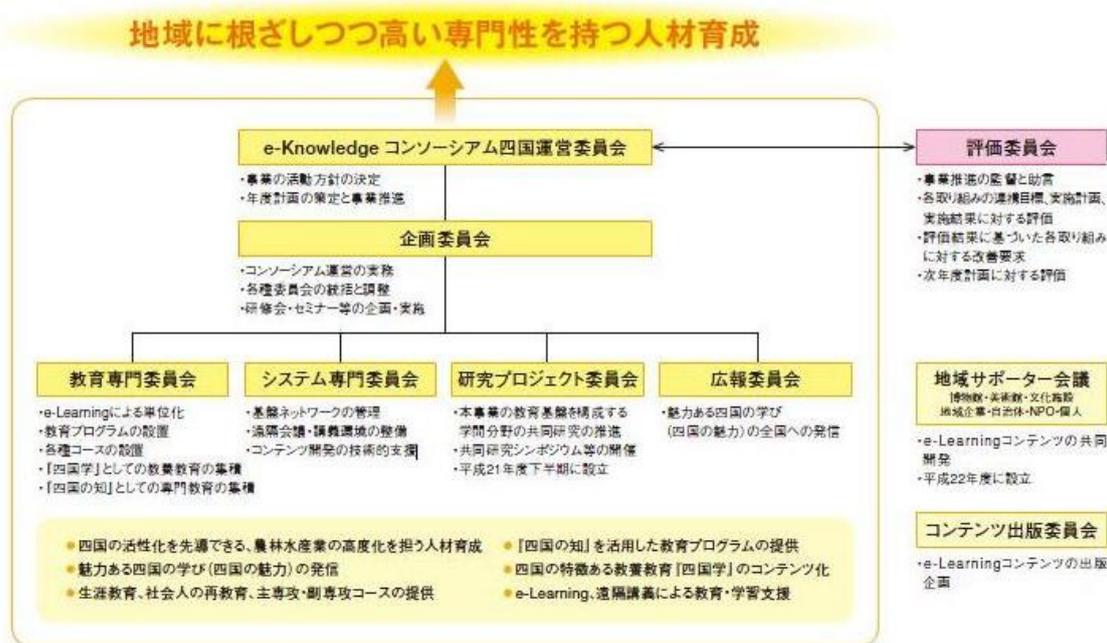


図1 eK4 運営組織図

出典：e-Knowledge コンソーシアム四国 HP <http://www-ek4.cc.kagawa-u.ac.jp/summary/>

2.2 事業内容

本事業は、大学連携組織eK4を設立し、教育資源『四国の知』をオンデマンド型eラーニングコンテンツとして集積するものである。また、オンデマンド型eラーニングに馴染まない教育科目については、遠隔講義（ライブ型教育支援）として実施している。

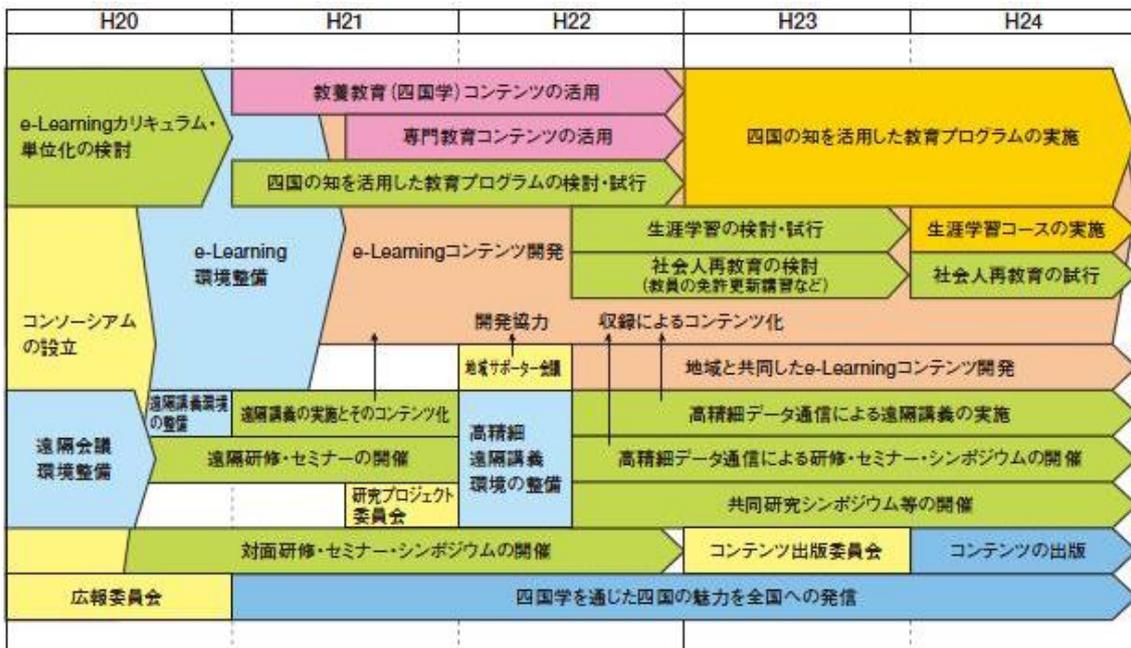


図2 平成24年度までのeK4の事業計画

出典：e-Knowledge コンソーシアム四国 HP

<http://www-ek4.cc.kagawa-u.ac.jp/2009/07/22/hopepage-jigyokeikaku.jpg>

eラーニングとは、インターネットなどのICT（情報通信技術）を利用した学習方法である。eK4が提供するeラーニングには、講義の目的によって2つのタイプがある。eラーニングで受講した講義は、大学の通常科目と同じように、単位として認定される。



図3 eラーニングによる2つの講義タイプ

出典：e-Knowledge コンソーシアム四国 HP <http://www-ek4.cc.kagawa-u.ac.jp/about/>

・オンデマンド型（非同期型遠隔講義）

事前に収録した講義映像や、自主学習用に製作された教材を、インターネットを通じて大学や自宅のPCに配信する。資料配付やレポート提出、小テストの受験、講師への質問などもPC上で行うことができる。現在までに62科目の授業撮影を行い、eラーニング教材として蓄積している。

・ライブ型（同期型遠隔講義）

連携大学に設置されたテレビ会議システムなどを利用して、実際に行われている大学の講義をリアルタイムで別の大学に配信する。質問やディスカッションなど、双方向コミュニケーションが可能である。平成21年度には13科目を配信し、427名の学生が受講した。

2.3 事業の効果

eラーニングのスクーリングにおける学生間の交流やSNSや四国版Wikipedia等を活用することで、他大学・他地域の学生同士の理解が深まる。ユニークな教育プログラムの広報活動により、優秀な学生が確保でき、eラーニングコンテンツの出版により全国への普及が可能である。eラーニングコンテンツの開発を複数大学の教員が行うことにより、コンテンツ開発の効率化、質の高度化を図ることができ、さらには、組織として教育を行うことで、大学全体の「教育の質」の向上にもつながる。多様な学問分野の教員が協働して、学際的な講義（例：農商工を俯瞰するオムニバス講義）のコンテンツを作成することができ、地域のニーズに応える教育プログラムの構築が可能となる。

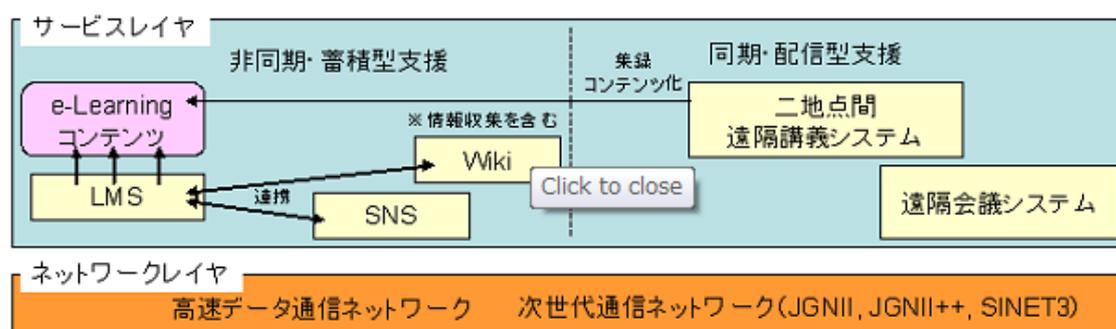


図4 ICTを活用した教育支援ツール

出典：e-Knowledge コンソーシアム四国 HP <http://www-ek4.cc.kagawa-u.ac.jp/summary/>

3 視察内容

3.1 視察・インタビュー実施事項

3時間ほど、香川大学におけるeラーニングの取り組みに関するご説明を受けるとともに、設備環境の視察と質疑応答を実施した。

3.2 香川大学側出席者（3名）

香川大学 大学連携 e-Learning 教育支援センター四国 助教 岩城 暁大氏

香川大学 総合情報センター eK4 事務局 技術補佐員 裏 和宏氏

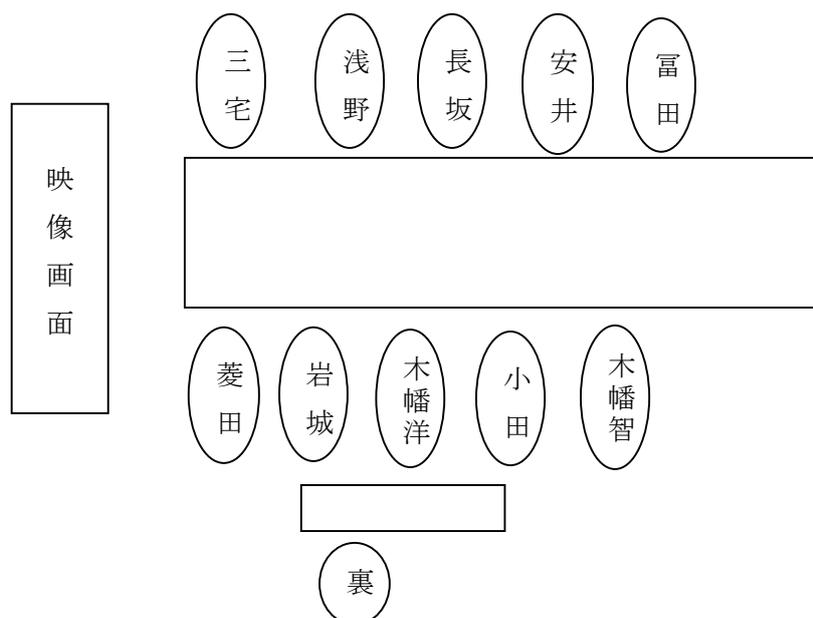
香川大学 事務局 菱田氏

3.3 視察者側出席者

	大学名	職名	氏名
1	愛知県立大学	教育福祉学部 教授	木幡 洋子
2	桜花学園大学	保育学部 教授	浅野 卓司
3		学務部・教務課長	長坂 達弘
4	名古屋学芸大学	ヒューマンケア学部 教授	安井 克彦
5	愛知淑徳大学	人間情報学部 助教	木幡 智子
6	小牧市立小牧中学校	教諭	富田 賢史
7	愛知教育大学	教育研究支援部長	三宅 育夫
8		研究員	小田 奈緒美

*WGメンバー8名にて実施（敬称略）。

【配置図】





視察の様子（収録教室）

3.4 視察・インタビュー議事録

3.4.1 e-Knowledge コンソーシアム四国の取組について

＜今回の視察訪問に際し、香川大学 岩城暁大氏によるご挨拶および自己紹介を行った後、eK4の取組についてご説明いただいた。＞

- ・ eK4の事業は、平成20年度戦略的大学連携支援事業「『四国の知』の集積を基盤とした四国の地域づくりを担う人材育成」に採択され、四国内8大学と共同で「e-Knowledge コンソーシアム四国」を設立し、事業を展開することとなった。
 - 元々は、四国における効果的な人材育成を目的として始まった事業である。少子高齢化が話題になっているが、四国でも問題意識を持っていた。自律的な発展を続けるためには、「四国は一つ」という意識をもち、積極的に地域づくりに携われる人材を育成する必要がある。それを担うのが大学であり、四国の中で個々の大学がバラバラに人材育成を行うよりも、協力実施した方が効果的であると考えた。
 - 四国内でも県や地域により特色や得意分野があるため、コンソーシアムを設立し、広域に連携することで、共に人材育成に取り組むたいと考えた。
- ・ 「四国学」という四国の特徴を学ぶことができる科目を設定した。

- ▶ 香川：希少糖やうどん、徳島：LED、藍染、高知：黒潮、愛媛：瀬戸内歴史文化という各県が特徴ある研究を実施していたことから、歴史と文化、自然、文芸、社会の4部門の内容を学べるようにした。過去の授業科目を表1に示す。

表1 eK4 提供の e-Learning 科目 (平成22年度～平成24年度)

提供科目	
平成22年度	
四国の歴史と文化 (香川)	コンピュータと教育 (香川)
地場産業からみた四国の社会 (香川)	情報ビジネス総論 (四国)
四国の自然環境と防災 (香川)	実践知財管理論 (四国)
日本古代の地域と人物 (香川)	情報社会論 (徳島文理)
流れと波の災害 (高知)	
地方政府論 (徳島文理)	
平成23年度	
四国の歴史と文化 (香川)	コンピュータと教育 (香川)
四国の自然と社会 (香川)	流れと波の災害 (高知)
地域社会研究 (専門教育)	情報社会論 (徳島文理)
地方政府論 (徳島文理)	
平成24年度	
四国の歴史と文化 (香川)	コンピュータと教育 (香川)
四国の地域振興 (香川)	未来可能性を創造するための学び (愛媛)
四国の自然環境と防災 (香川)	流れと波の災害 (高知)
阿波学 (専門教育)	情報社会論 (徳島文理)
地方政府論 (徳島文理)	

出典：e-Knowledge HP 一般向け公式パンフレット

<http://www-ek4.cc.kagawa-u.ac.jp/page/pdf/pamphlet2.pdf>

- ・ コンソーシアムの組織構成は、実施者である教員と、システム担当、事務に外部評価委員会を加えた4部署からなる。
 - ▶ 事務は専任雇用をしているわけではなく、各大学で2～3名ずつ、通常業務に加えて兼任という形で担当してもらっている。
 - ▶ 外部評価委員は5～6名おり、定期的にコンソーシアム外部の方に評価をしていただく。
 - ▶ システム担当は、eラーニングの運用をし、教員が授業を実施する役割である。

3.4.2 質疑応答

① e-Knowledge コンソーシアム四国の運営について

<eK4におけるスタッフの雇用や助成後の運営に関し、質疑応答を行った。>

- Q. 現代G Pでの助成が受けられなくなってから、コンソーシアムの運営をどのようにされているのか。
- A. 2008年、2009年の2年程は助成金をいただき運営していた。その時には、その助成金で特認助教を一人雇用し事業を進めていたが、資金が打ち切られた後は雇用できなくなり、その方は辞められて他にうつられた。
- 現在、eK4としての独自の予算措置はない。各大学の予算で賄っている。香川大学では、情報センターの予算で運用しており、事務は兼務をしていただいている。
 - コンテンツの作成は予算がないので、今は他大学に依頼しにくい状況であるが、各大学の特徴ある研究は進めていることから、例えば高知大学は黒潮の研究を年2つほどコンテンツ作成してくれている。しかし、他大学はここ2~3年は0の状態が続いている。
- Q. 助成金がある時とない時の差はあるか。
- A. 当初、助成金で雇用されていた方は、事業を継続するために、助成がなくなってからは大学の予算で雇用してもらっている。
- 愛媛大が主幹校である平成20年度採択の教育G Pでは、各連携大学からお金を募って運営をしているらしいが、eK4は予算0円でやっている。
- Q. 地域からの支援はあったか。
- A. 特にない。地域サポーターを募り、一緒にコンテンツ作成をしてもらう計画（四国に根ざしたSNS）があったが、応募が1件のみであり、その後なくなってしまったので、地域サポーターが0件になってしまった。
- Q. 本プロジェクトは平成24年度から5年間の助成により実施しているが、終了後も継続していかなければならない状況である。補助金がなくなる中で継続実施されているのは素晴らしく、国公私立で実施されているところは参考にさせてもらい、特に運用面について詳しく教えて欲しい。
- A. なぜ、お金がないのにやっていけるのかという点については、主幹の林教授が、G Pを受ける前に文科省に行った際に、5年間助成はするが、10年は続けて欲しいと言われて実施していることから、10年を目標にがんばっている。
- 実際には、助成は3年しかもらえなかったが、当初の経緯により10年は継続実施したいと考えている。また、10年かはわからないが、現状の維持・継続は可能であると思う。
 - 専任であった鈴木特認助教がいなくなった後は、菱田さんと岩城先生が運営スタッフとして実働を担っている。菱田さんは大学の予算で雇用されており、岩城先生は平成25年から国立5大学で本格実施している「知のプラットフォーム」の予算で

雇用され、兼務している状況である。

Q. 「eK4」と知の「プラットフォーム」は別の組織であるのか。

A. 別組織で、並列で進めている。単位互換やLMS等は、eK4で培った知識や情報を知のプラットフォームに活かしている。

- eK4は、eラーニングを用いて人材育成をすることを目的としていたことから、どちらも基本的な実施手法は同じである。
- その他、単位認定などの面も整備する予定であり、それらも担う可能性があるが、今後検討していく。

② eラーニングコンテンツの作成に関わるスタッフについて

<eラーニングコンテンツの作成に関し、質疑応答を行った。>

Q. コンテンツ作成にはどのようなスタッフがいて、どのように作成されているのか。

A. コンテンツ担当として岩城さんが1人いるが、撮影の専属スタッフはいない。

- eK4のスタッフとしては、eラーニングコンテンツ担当（岩城先生）1名、事務担当（菱田氏）1名の2名体制である。
- 岩城先生は、eラーニングを担当していたことから、現在の知のプラットフォームの事業に移動することになった。eラーニングの撮影、作成、アルバイトの雇用などを担当している。eK4で現在2科目を取りまとめ、配信をしているので、コンテンツ関連の担当として、メンターの役割を担っている。
- 事務関連については、菱田さんが担当している。
- 撮影スタッフは、学内掲示で募集して応募してきた大学内の関連サークルなどの学生に、アルバイトで撮影をしてもらっている。
- 以前は、学生スタッフで回そうと撮影方法をTV局の方にレクチャーしてもらったこともあるが、学生は、卒業してまた次の学生へと代替わりしていくので、知識の伝達が難しかった。
- 現在は、放送サークルの学生がアルバイトをしているが、基本的には学生主体でできるように指導と適宜補助を行っている。
- 高級な機材を使用できるメリットをつけて、アルバイト募集を掲示板などで行っているため、カメラや撮影に興味がある学生が来ていた。ただ、現在では手持ち機器の進化からこうした魅力は少なくなってきたので他のメリットを考えないといけなくなっている。

Q. 現在アルバイト人員は何名いるのか。

A. 実働2名、全登録者は10名程度である。

- ラジオや音声をやりたいなど、学生の興味関心にばらつきがあり、安定してやれないため、ノウハウもたまりにくいことが難点である。

Q. 運営スタッフは、学内の規定により雇われる人数が決まっているのか。5年で非常勤講

師を雇い止めせず、正規雇用することも考えないといけない。

- A. 学内の規定ではなく、補助金で雇われる人数が決まっている。
- 菱田さんは4年、岩城さんは3年半だが、事務の方は定期的な人事異動などであると変わってしまう。

③ コンテンツの撮影について

<eラーニングコンテンツの撮影や収録、デザインに関し、質疑応答を行った。>

- Q. コンテンツの撮影は、どのような形で実施しているのか。
- A. 香川大学では、「四国の歴史と文化」担当の田中先生のように対面の授業を撮影し、スライドと教員の2つが1画面にあるのが、基本的な形である。
- PPTの部分は、教員の話す内容をアルバイトが書き写し、JPEG化しているが、かなり時間がかかるため、自動化できると良い。
 - 学生アルバイトは、1日2時間×5日程、約1週間で完成させている。
 - 今ある授業を撮影するのはそれ程難しくないが、必要な内容を一から作成するのは大変だと思う。
 - 学校図書館司書教諭資格など、国家資格などの場合は内容の縛りがあり大変だろう。
 - フィールドなどの撮影もあり、現地の人インタビューなども行っている。
 - インタビューなどの依頼は、原先生が担当されていた。
- Q. コンテンツのデザインはどうしているのか。
- A. ソフトを購入した際のサンプルが4~5つあるので、それを使用している。
- インストラクショナルデザインや分野分けは、担当教員が担う。
 - 岩城先生が、小テストを見たかどうかなどの目視チェックをする。実際にコンテンツを見たかどうかは把握できないため、クリックした時間等をもとに4~5時間かけてチェックをしているが、すべては見きれない。
- Q. 撮影は、どのようにしているのか。
- A. 対面教室の場合には、カメラは2台で撮影をしている。教室の一番後ろに大きなメインカメラを置き、中ほどに音声をひろうためのカメラを机上に設置している。（小型のものは、民政用のキャノンG10）
- 教員はワイヤレスマイクを使用し、音声をひろっている。
 - 学生からのアンケート意見などで、音声が悪いとよく言われたため、一番後ろに設置したカメラのマイクでとる方式から改善した。
- Q. コンテンツの見せ方は、どのようなイメージをしているのか。
- A. 教室の撮影ではパワーポイントが見づらい、音がよく拾えていないということがあ
る、という問題があるが、スライドを別窓で映す、カメラを2台置くこととマイクを使用することでかなり解決される。

- 流用するか、eラーニングとして作るかにもよるが、方針が決まっていると、カメラの台数や音声などを考えやすい。
- Q. 学生にはカメラに写ること等も伝えているか。
- A. 問題が起きた場合に備え、しっかり伝えている。
- Q. 教育現場で子どもの活動を撮影する場合には、親御さんの了解を取り、写りが大きい場合には個別に許諾をもらうなどをしたことがあるが、eK4 ではどのようにしているか。
- A. eK4 では、後ろを向いている時が多いため、あまりきにしていない。場合によってはモザイクをかけたりしているが、ガイドラインを HP にのせてもいる。
- Q. 動画の編集は何というソフトでおこなっているのか。動画編集時のコマオチなどはあるか。
- A. Adobe プレミアプロで行っている。落とし込む時は FLV で、教員に確認してもらうときは DVD で持って行って確認をしてもらっているので、MPEG2 にしている。コマオチはせいぜい 1~2 コマ程度であまりない。映像に動きを出した方が学生は飽きなくて良いと思う。
- Q. 映像とスライドを同画面に出すことは簡単にできるか。
- A. 一番簡単なのは、2 台のカメラで 1 台は映像を、もう 1 台はスライドを撮る方法がある。
- Q. アウトドアで撮影する場合、他の音が結構入ってしまうがどうか。大型モニターで見たりすることはないか。
- A. 大型モニターで見ることはない。容量は 128M で抑えるようにしている。
- Q. 撮影や編集には、どのくらい時間がかかるのか。
- A. 撮影は岩城先生、原先生の 2 名で行い、3~4 日かかる。編集は 2 日程である。
 - 1 回分は、大体 1 週間程で完成する。
 - どうしても時期が限られる場合には、2 年がかりで撮影する場合もある（四万十川の映像など）が、基本的には上記日程で撮影を行う。
 - 収録のストーリーは、大体原先生が考え、それを打ち合わせで事前に聞いておいて、インタビューなどを実施している。
- Q. 小テストをさせる場面を作ったりしているか。
- A. していない。

④ コンテンツについて

<eラーニングコンテンツに関し、質疑応答を行った。>

- Q. コンテンツの時間は、どのように設定しているのか。
- A. コンテンツのみで 90 分としている。それ小テスト 3~4 分を加えている。
 - 一番短いものでは、対面授業を撮影した際に、機材の設置などに時間がかかり 62 分

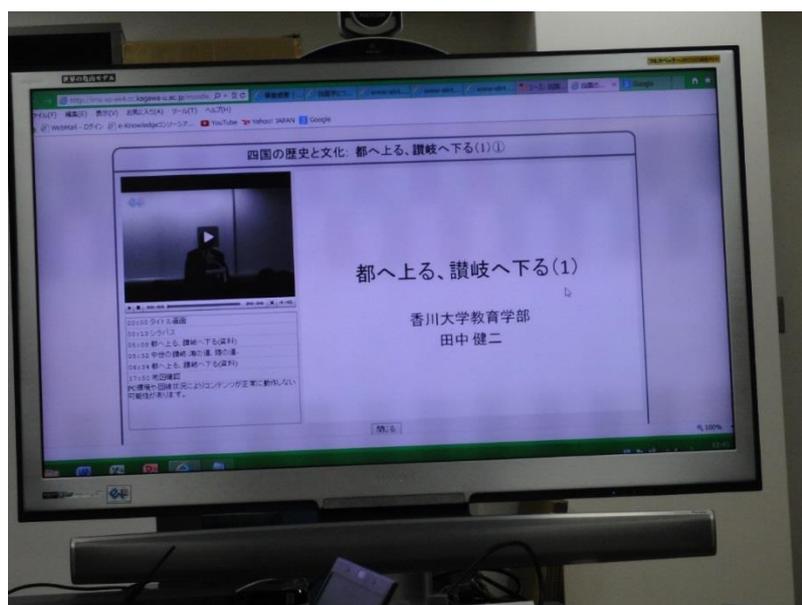
のものもあったが、その場合には設置も含めて90分で流している。

- ▶ 以前、時間が短いものは学生も喜ぶかと思ったが、逆に90分未満であるとのクレームもあった。

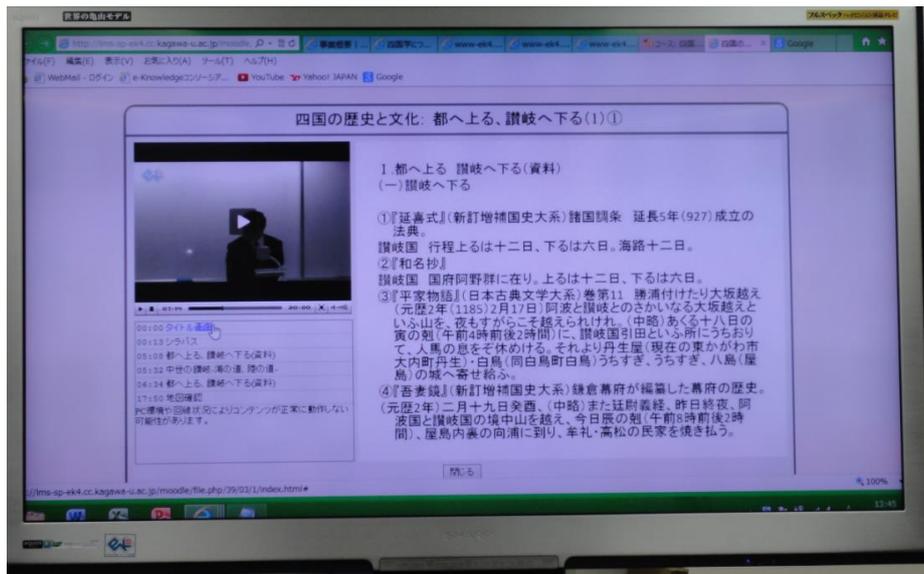
Q. コンテンツは、NHKのアニメや寸劇などを使ったりしているようなものは退屈しないと思うが、時間がかかりそうなのが難点である。

A. コンテンツは、20分ずつに区切っている。

- ▶ センター四国の村井先生などは、色々な寸劇や音楽を流したりしていたが、その効果までは測っていない。ただ、作成には時間がかかるため、人材がかなりいないと難しいと思う。
- ▶ eK4でも、時間と手間がかかるので、効果はあると思っていたが、あえて提案はしなかった。
- ▶ 林教授は、自宅などで撮影をしたり、趣味のお遍路巡りをする際に撮影をして授業の流れを説明したりと、学生の興味をひくつかみとして使っていたが、効果はあると感じた。



香川大学の基本的なコンテンツの一例



教員の説明を文字起こししたコンテンツ

⑤ 授業サポートシステム (Moodle) での小テストについて

<eラーニングコンテンツ視聴後の小テストなどで活用するサポートシステムに関し、質疑応答を行った。>

Q. Moodle では、どのようなことができるのか。

- A. Moodle は無料で使用できるオープンソースである。HP を作ってもらえるなどの構築には専門家が必要であるが、それさえ整ってしまえば使いやすいと思う。
- 教員が使用する場合には、小テストの作成などが簡単に作成できる。
 - 林先生がサーバー管理をし、室井先生には確認をしてもらい、アカウント発行や設定は岩城先生が担当している。
 - 基本的な本も出ているので、使ううちに、活用方法はわかってくると思う。

Q. 学生からの質問にも、Moodle で対応するのか。

- A. そうである。よくある質問はFAQ も作ってあるので、2013 年後期からは、これを活用している。以前に比べると、FAQ が無い時よりも、登録の質問などは減っているように思う。
- 資料の配布などもできるため、使い勝手が良い。
 - 香川大学総合情報センターの2階にはeK4 ルームがあり、管理は手伝ってもらっている。

Q. コンテンツへ受講生がアクセスしたかどうかのデータは集約しているか。

- A. 活動レポートに、いつ何分にクリックをしたかどうかは記録されるが、何時～何時までコンテンツを見たかどうかまではわからない。
- 小テストは、コンテンツを見ないまま受けてはいけないことになっているので、岩城先生がある程度目視によりチェックはしている。

- 明らかに時間が少ないなどは、見つけることができるが、1 講義分で 4~5 時間かかるため、自動化できると良い。

Q. 小テストは毎回実施するのか。

A. そうである。講義の最後に LMS で小テストを受けるようにしている。

- 10 点満点でつけているが、小テストを受ける時間は 4 分とか 3 分とか自由に変えられ、受講回数も 3 回とか 5 回とか変えられる。
- 複数回受講した場合、一番点数の高かった点数を反映している。

Q. 小テストの設問内容は毎回変えているのか。

A. 以前はレポートを提出させていたが、小テストに移行した。10 問以上設問を作っておき、ランダム設定をしているが、全て変わるとはいうわけではない。

- 小テストを作成するのは教科担当者ではなく、岩城先生が作成し、教員に確認してもらっている。
- 元々、小テストを提案したのが岩城先生だったため、教員の負荷を減らすためにこのような形をとっている。
- 最初は慣れないので負荷が大きいですが、段々慣れてくる。

⑥ 受講の様子について

<e ラーニングコンテンツの受講に関し、質疑応答を行った。>

Q. e ラーニングの科目の受講者数はどのくらいいるのか。

A. 大体、100 名は越える。最大 180 名程である。

- ただ、受講人数は、レポートかテストかなどでかなり変わってくる。最初のガイダンスには来てくださいと言っており、金曜 1 限の授業が一番受講者数は多くなる。
- e ラーニングを受講する時間は、試験時に時間帯が重なっていると調整が難しいため他の講義を入れることができず、また 2 回目以降は自宅などで受講すると教室には来なくていいため、2 限よりも 1 限の方が人気は高く、人数も多くなる傾向にある。
- 連携大学でのガイダンスは、遠隔講義でもやったことがあったが、今はガイダンスの様子を収録したものを配信し、資料と共に見てもらう形式をとっている。
- 試験監督は、事務では対応できないため、他の教員が担当する。

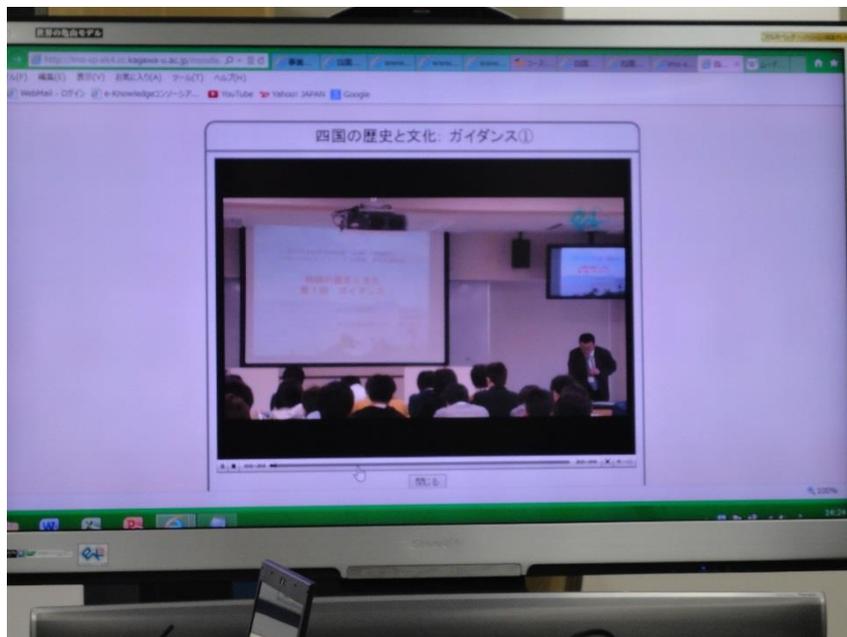
Q. 対面の授業と e ラーニングの授業を併設していると思うが、受講状況はどうか。

A. eK4 では、e ラーニングのみで実施しており、最後の試験のみ対面で実施している。学生には、1 ヶ月前にどんな問いで、何を勉強してくるかという情報を提供している。

- 香川大学が担当している科目は、香川大学の学生は学内で受講し、他大学には試験問題をメールで送り、必ずしも同時刻に開始はできないこともあるが、少し実施時間がずれても、事務対応で実施してもらっている。その後、答えは香川大学の担当教員に送ってもらい、○をつけて返却する。点数をつけるので、各大学の基準に従

って、成績はつくことになる。成績へ点数を反映させるのは事務対応していただいている。

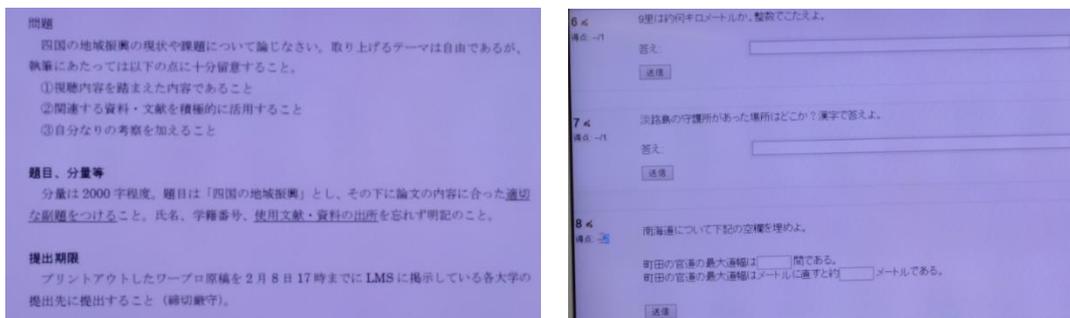
- 単位は、各大学で科目の置き換えをして認定している。



他大学に配信するガイダンスのコンテンツ



試験の出題範囲等の事前連絡



小テストの一例

4. まとめ

- ・ eK4 は四国における効果的な人材育成を目的として始まった事業であり、「四国学」の授業を e ラーニングで配信している。
- ・ 事業 2 年目で助成金を打ち切られたが、3 年目にはコンテンツを 10 科目近く作成し、実際の配信も行った。助成金がない中で現在まで継続して運用するためには、実務と教員、システム担当者の連携が不可欠である。
- ・ コンテンツの作成には、科目担当教員の他、スタッフ 1 名、撮影・編集アルバイト学生が関わっているが、安定したアルバイトを確保することは課題である。
- ・ 現在は eK4 自体には資金は全くなく、各大学の経費で運用をしている。コンテンツはあるものを使用しているため、運用は維持、継続するにはそれ程難しくない。しかし、教員の負荷を考えると、新規コンテンツの作成依頼はしづらい。
- ・ コンテンツは、対面の授業を撮る方法と、収録教室で教員のみを撮影する 2 パターンを基本としている。教員の話す内容を文字起こしするのに時間がかかるため、自動化できると良い。
- ・ 学生がコンテンツを確実に見たかどうかの確認は、何分見たかがわからないため正確には把握できないが、クリックした時間は記録に残る。スタッフが 1 回あたり 4 ～5 時間かかるが、目視で確認をしており、大体は把握できるが、全員分を正確に確認するのは難しい。
- ・ 学外にインタビューや撮影に行く場合、1 回分のコンテンツを作成するのに撮影 3～4 日と編集約 2 日で 1 週間程かかる。
- ・ アニメーションや寸劇を取り入れたコンテンツを作成すると、学生の評判は良く、効果はあるが、作成に時間がかかるため、基本的にはそれらは行っていない。
- ・ コンテンツと共に Moodle を活用しており、学生へのフォローや配信時刻の確認、小テストなどがしやすいように工夫している。
- ・ 2013 年度後期からは、FAQ 等を作成したので、学生からの設定に関する質問は以前に比べて少なくなったように感じる。
- ・ コンテンツは基本的に 20 分単位のものを合計 90 分になるように作成し、その他に小テストを実施する形で作成している。
- ・ 受講者数は大体 100 名以上であり、最大 180 名程になった。曜日や時間により受講人数はかなり左右される。
- ・ メンターとしての岩城先生の役割は、コンテンツの撮影、編集、小テストの作成、アルバイトの管理など多岐に渡る。

以上